

# 自動運転サービス・実証実験での IoT 技術活用

Tier IV 技術本部 関谷英爾

## 概要

- 会社紹介
- 自動運転のコンポーネント
- FMSについて
- IoT活用事例

## 自己紹介

- Tier4 技術本部

- 関谷 英爾

- 経験

- 分析基盤, 機械学習 (レコメンド, 強化学習, 組合せ最適化)

- Tier IV 2018/03～

- データ基盤・機械学習基盤

- FMS開発マネジメント



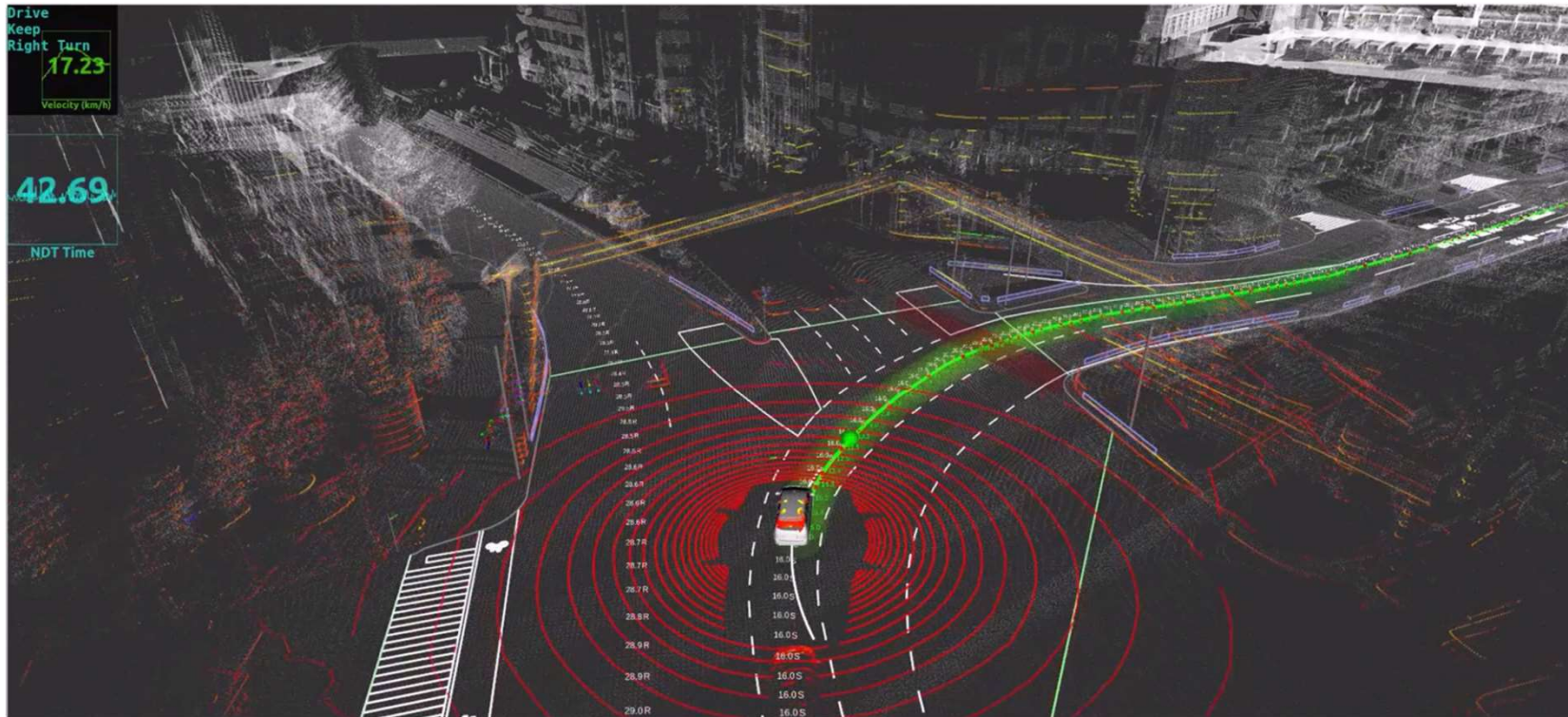
@eratostennis

## 株式会社ティアフォー (Tier IV, Inc.)

- 自動運転ソフトウェア開発 (Autoware\*)
- 自動運転技術を活用した物流サービスの開発
- 近距離低速自動運転サービスの開発

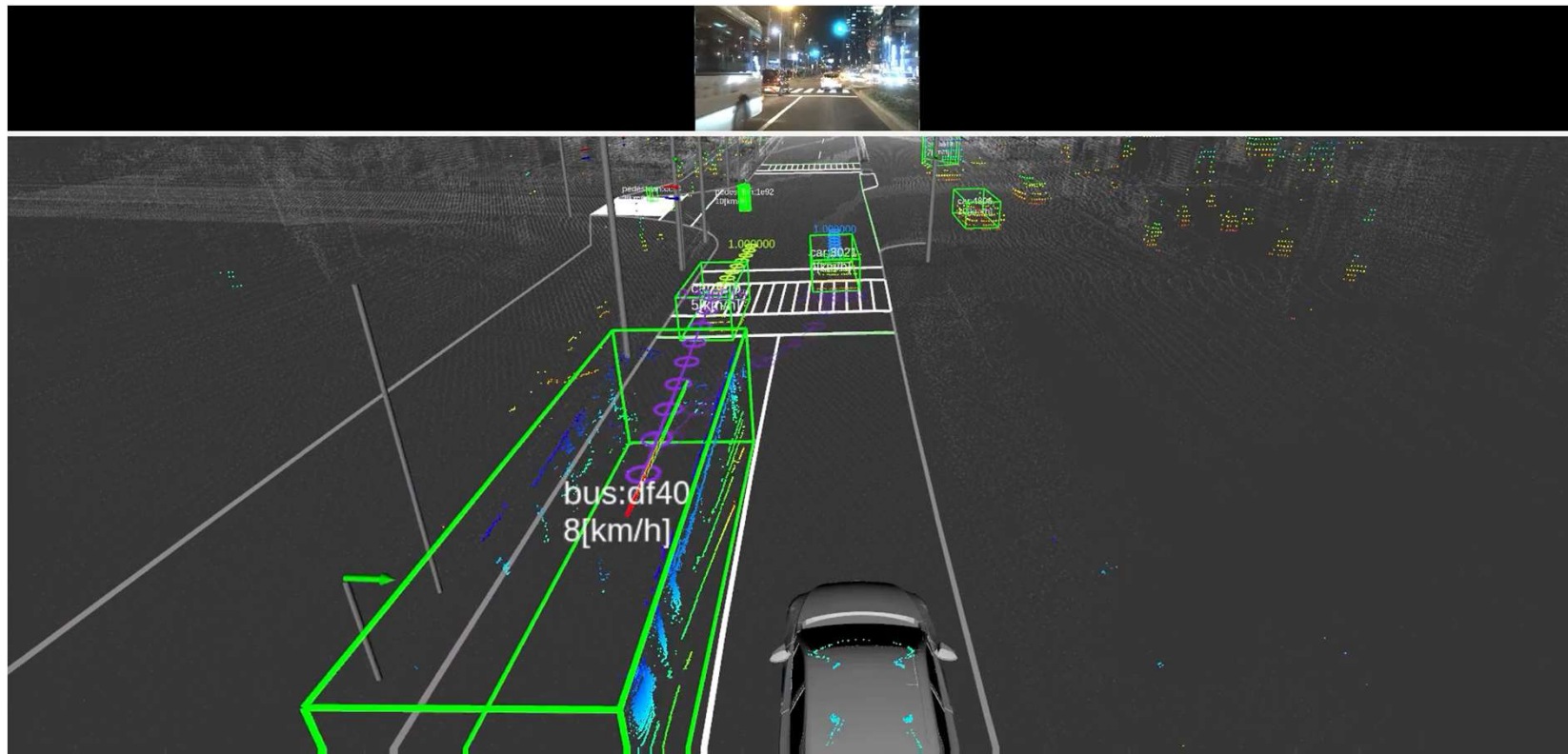


# Autoware



Retrieved from <https://github.com/CPFL/Autoware>

## 自動運転が見ている世界



## | Autoware FMSについて



## Autoware FMS

- Autowareで動く自動運転車両の運行管理システム

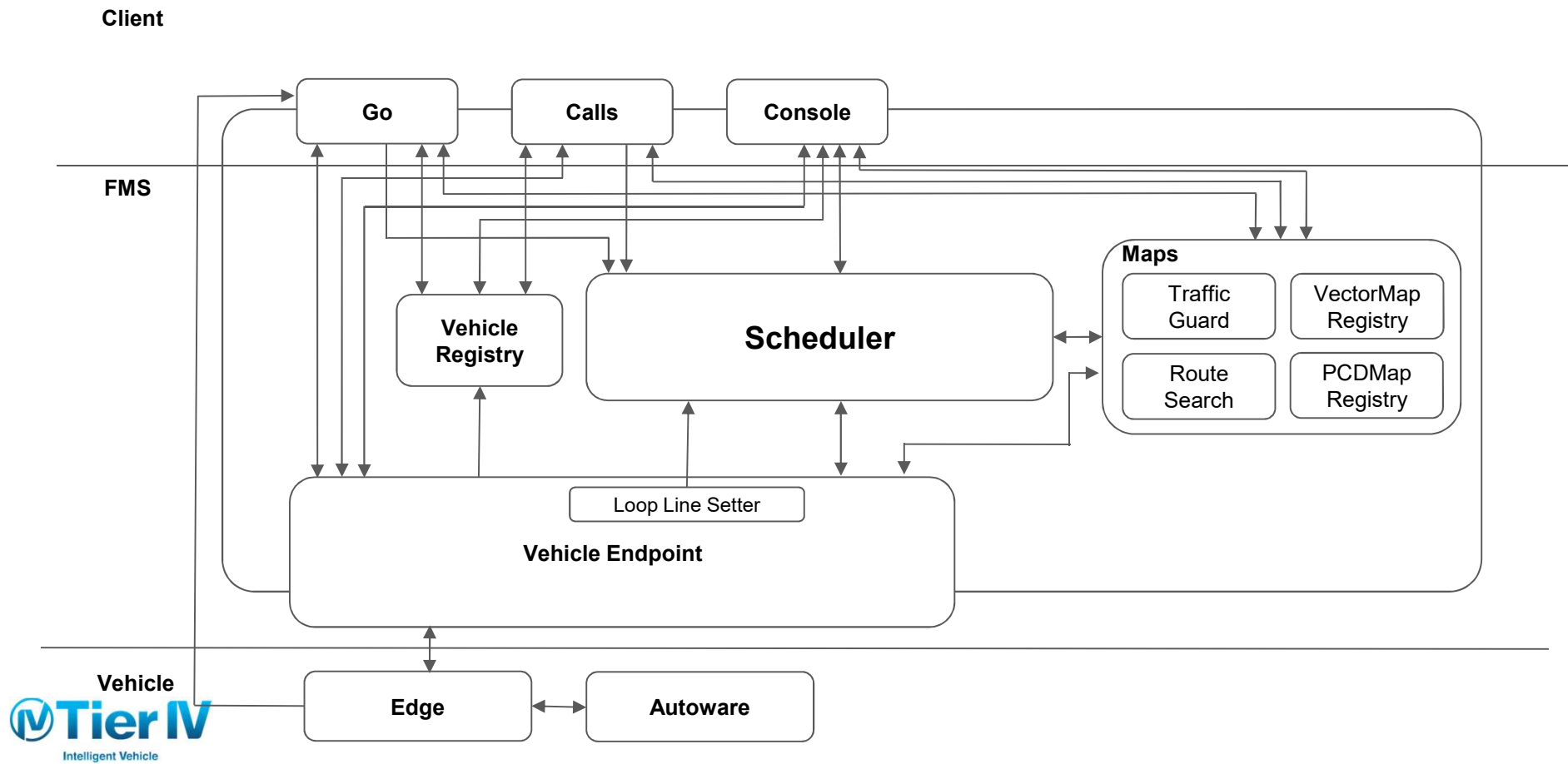
- 機能

- モニタリング
- スケジューリング
- 経路計画
- 運行過去実績管理

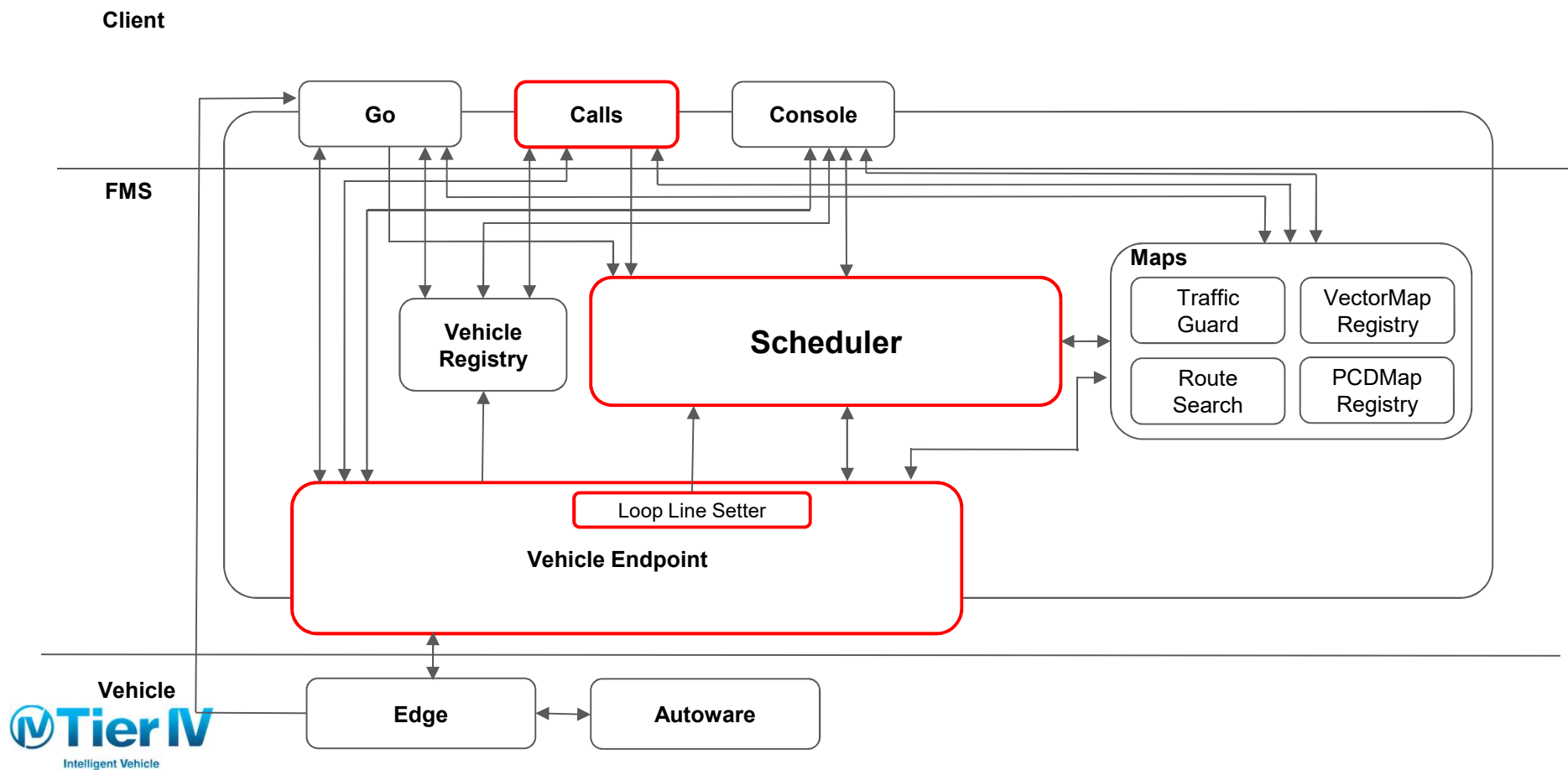




# Autoware FMS

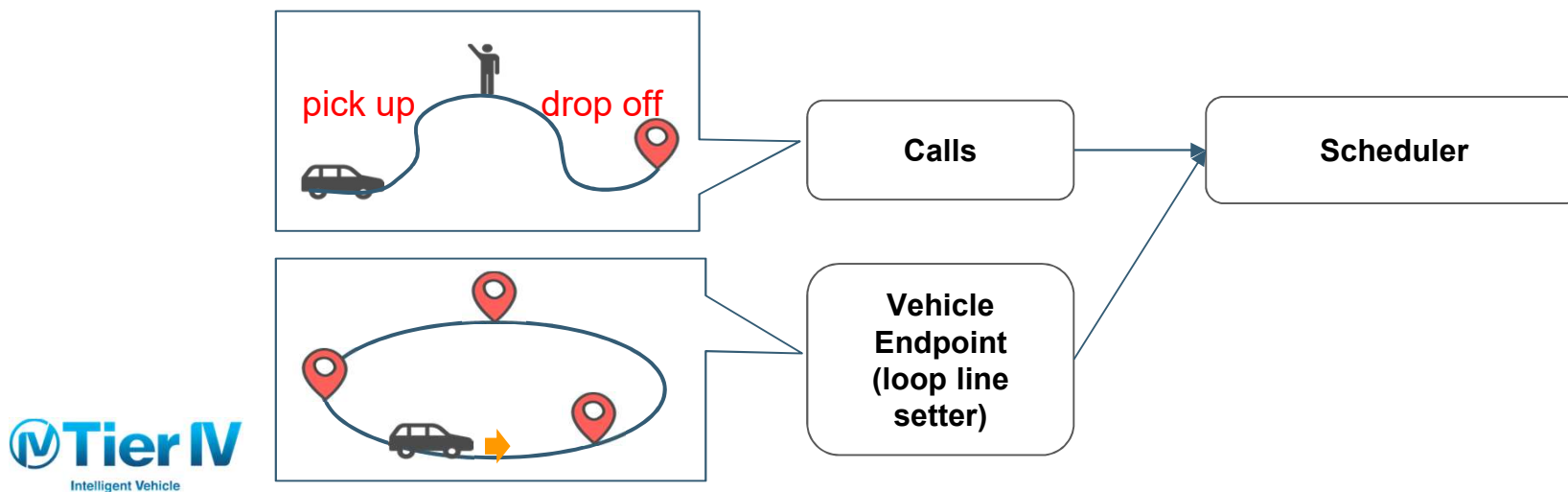


## FMS処理の流れ - 配車依頼 -

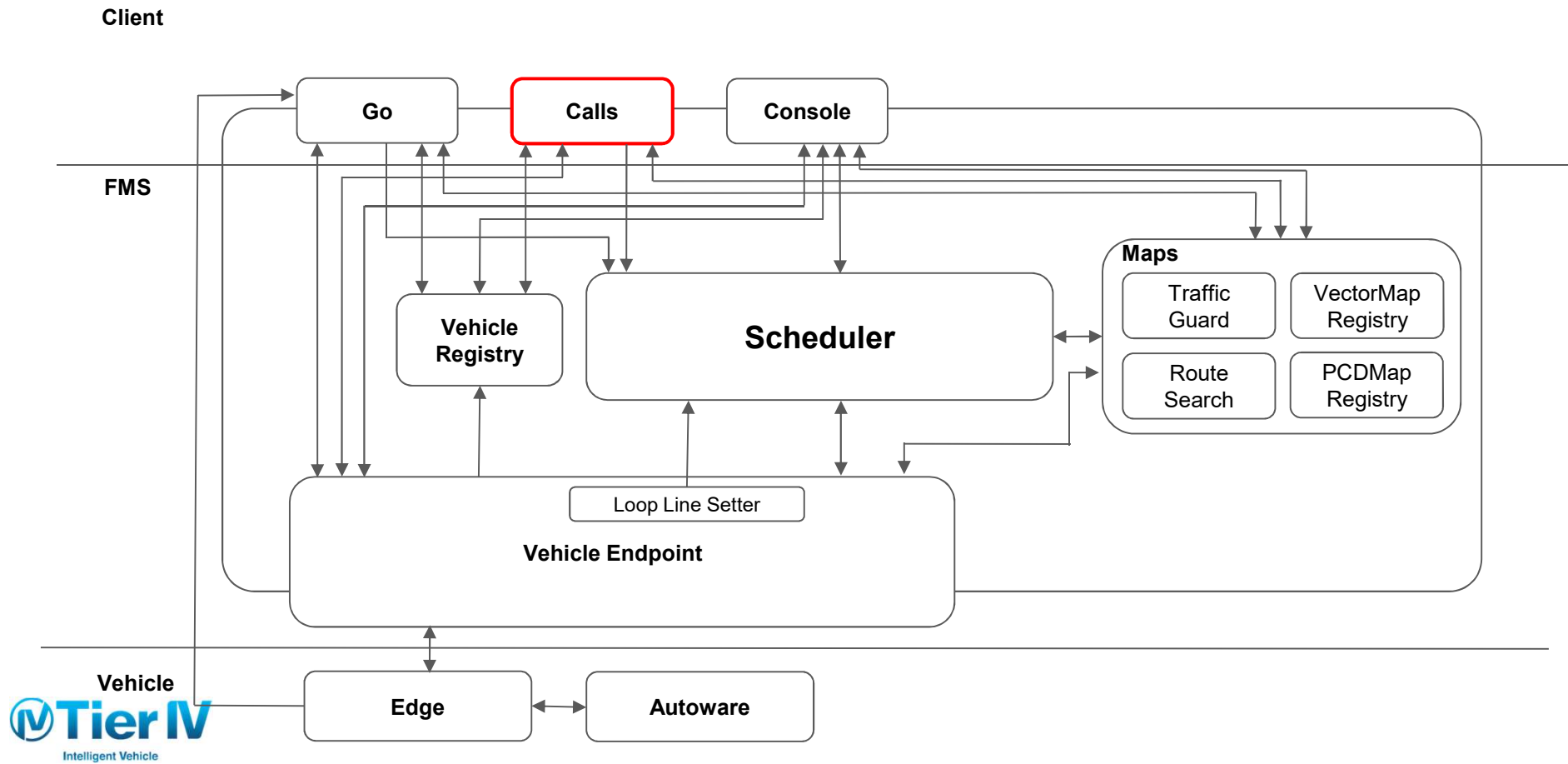


## FMS処理の流れ – 配車依頼 –

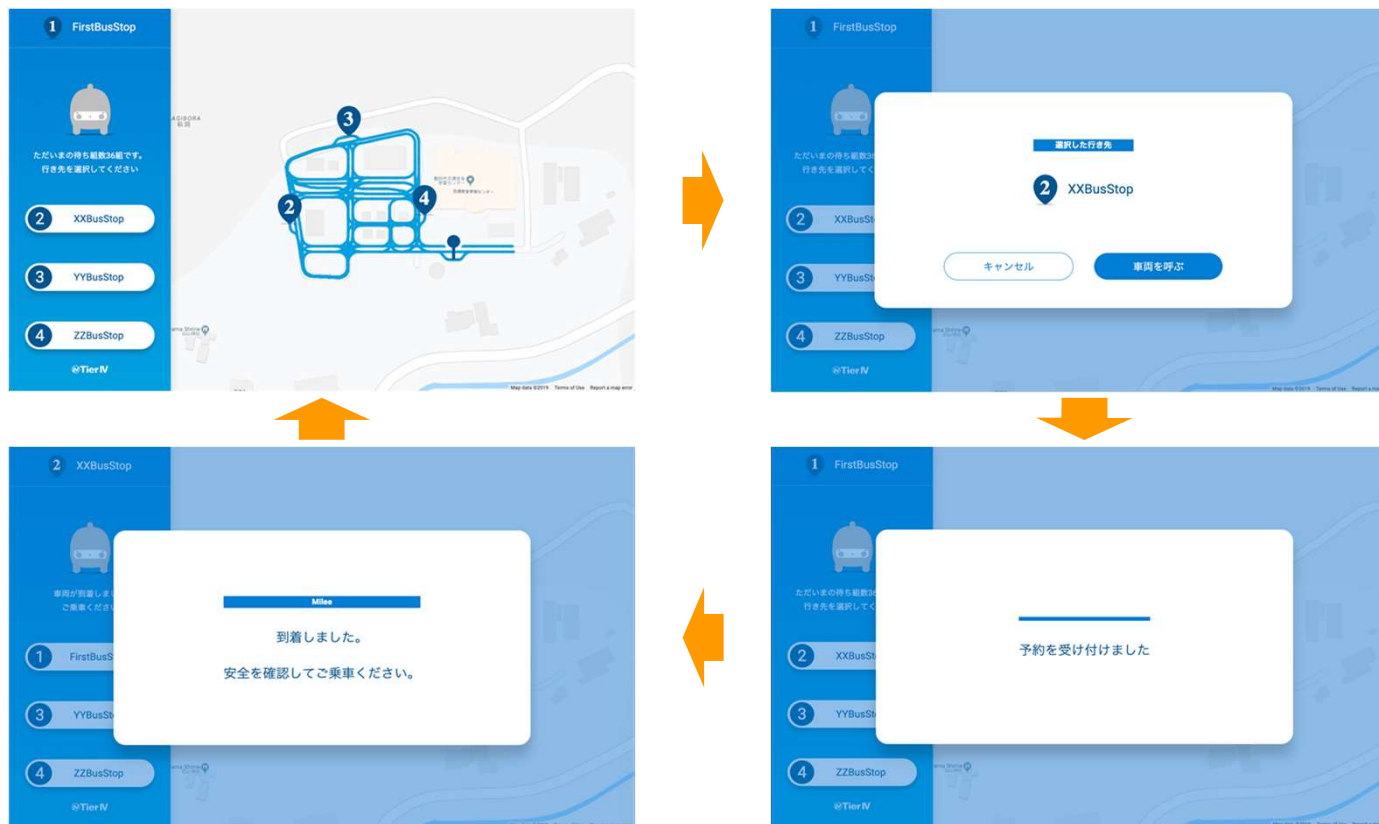
1. Calls/VehicleEndpointからSchedulerに対し配車依頼を投げる
  - a. Calls: オンデマンドバス
  - b. VehicleEndpoint: 巡回バス
2. Schedulerは配車依頼のスケジュールを組む →



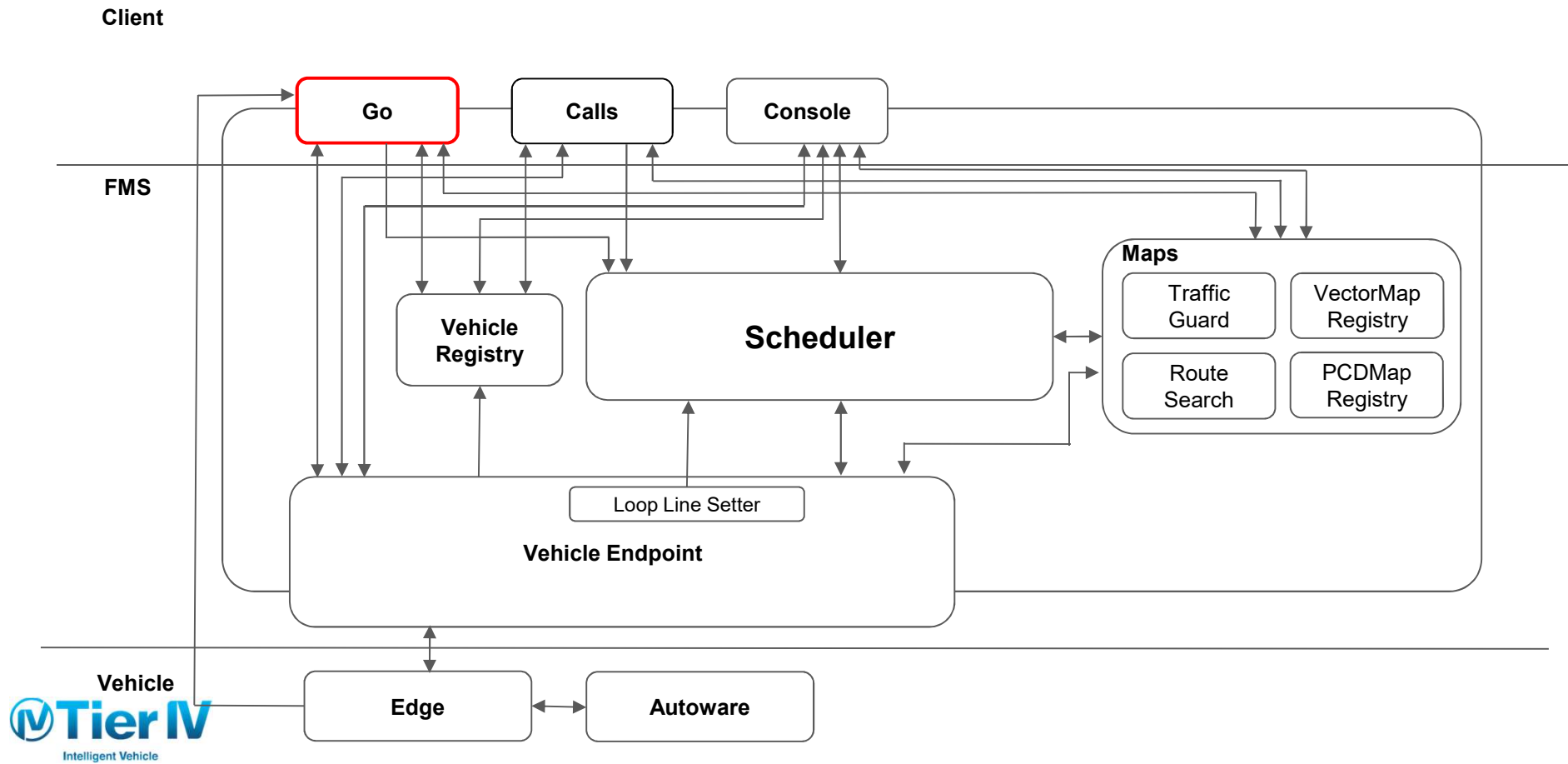
# Autoware FMS



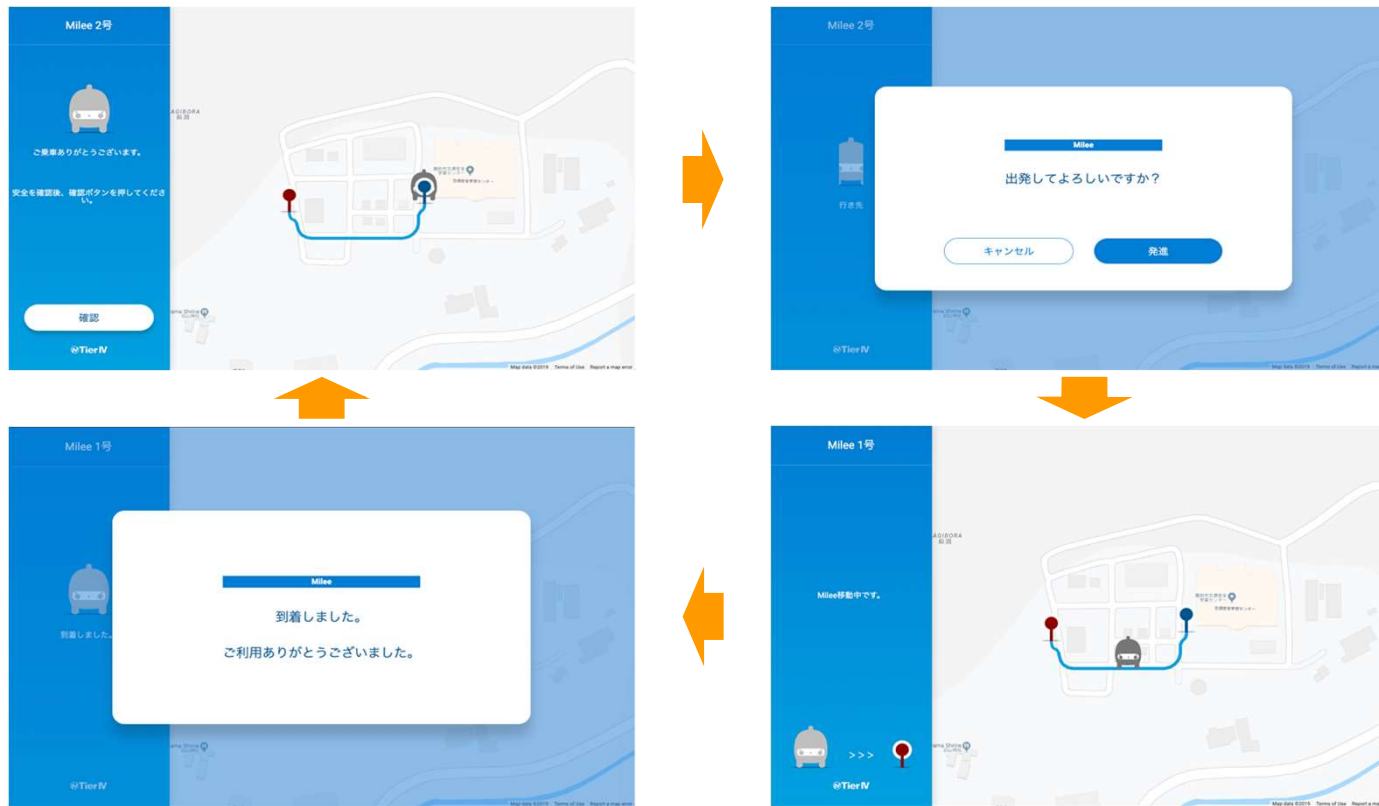
# 配車アプリ



# Autoware FMS



# 車載アプリ

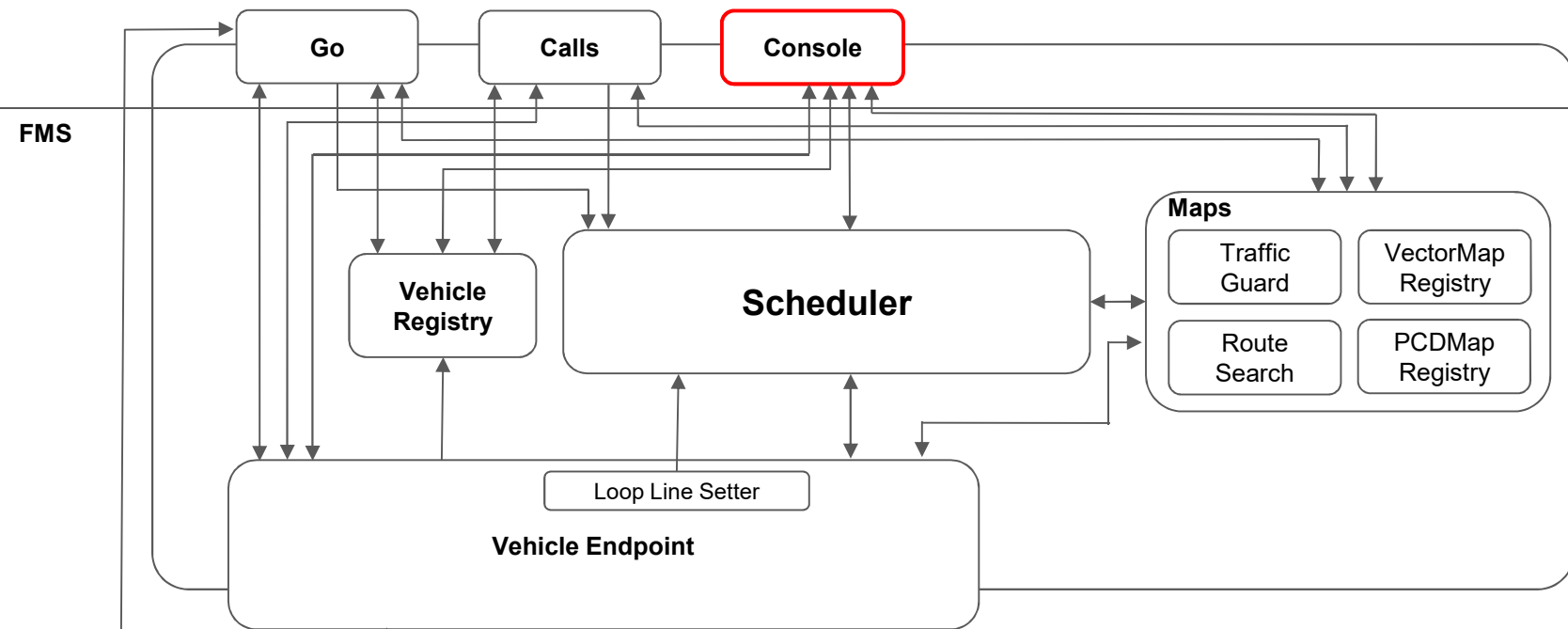




# Autoware FMS

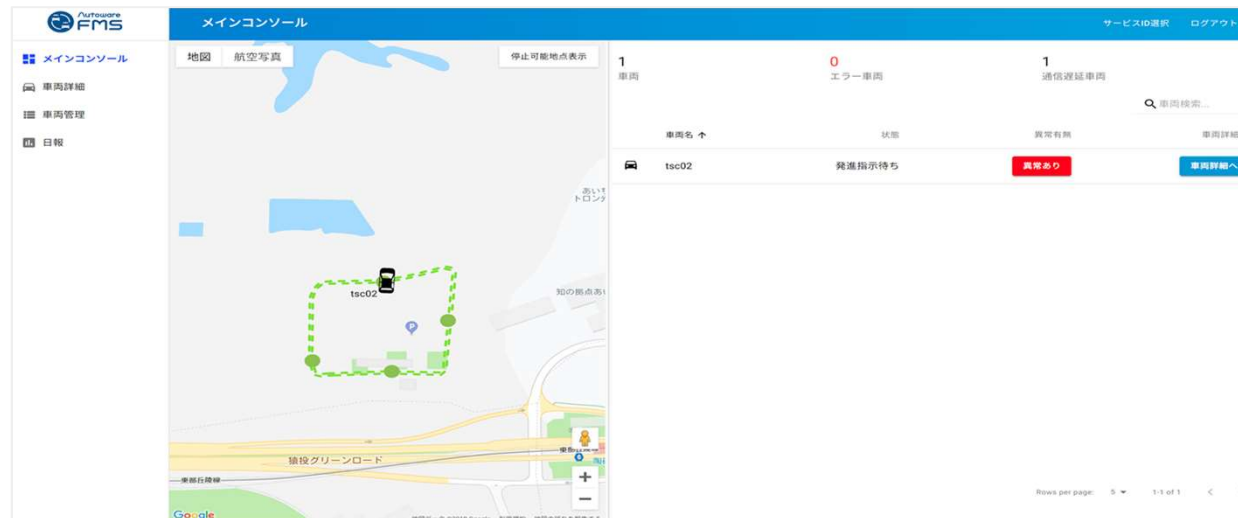
Client

FMS



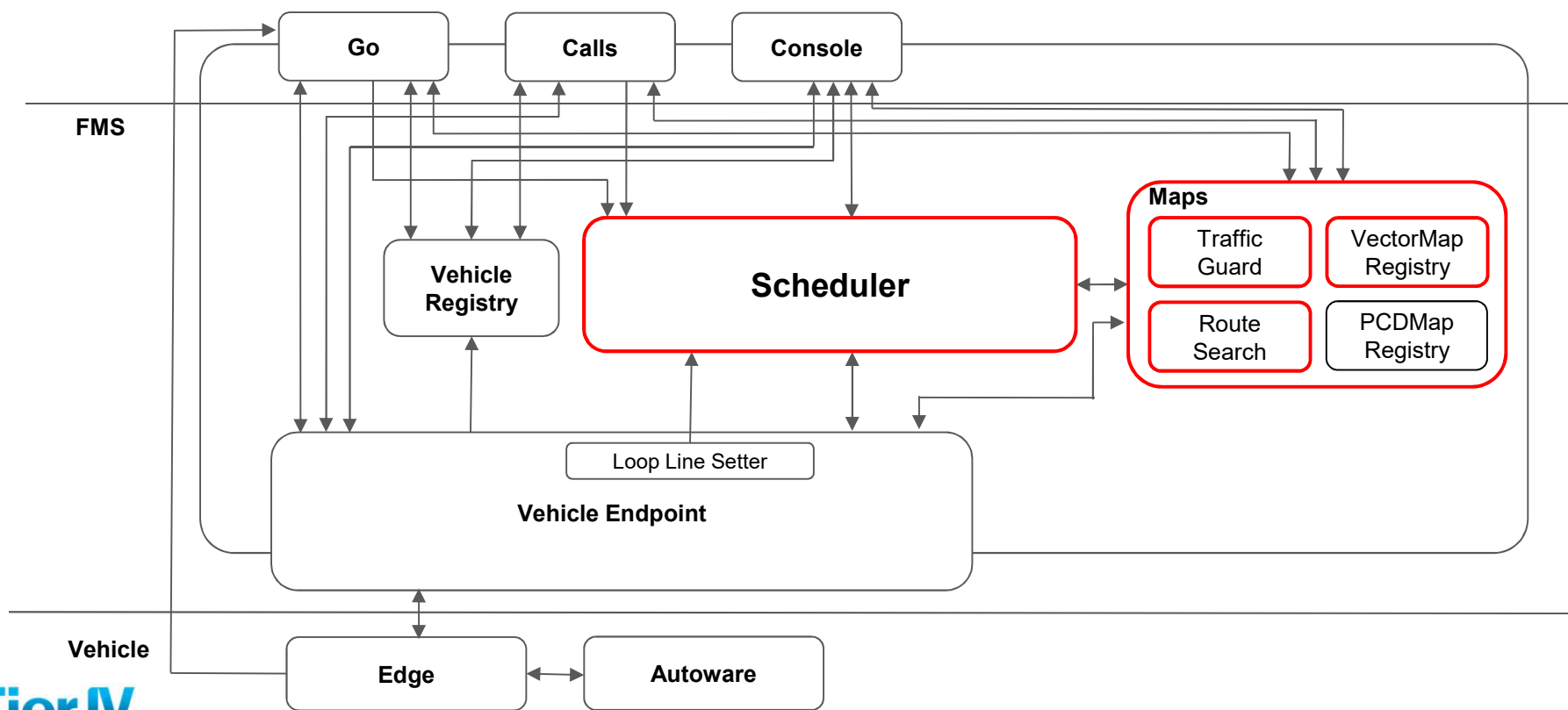
## コンソール

- 位置や車両状態などのモニタリング
- エラー・オフライン時の通知
- スケジュールの予定・走行実績確認



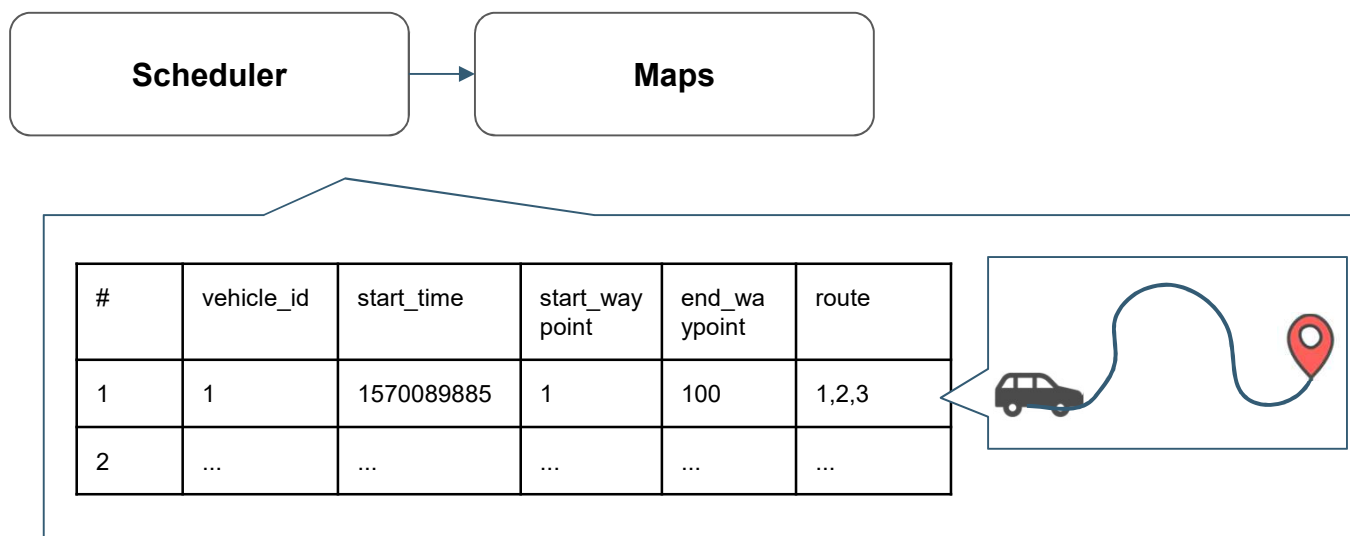
# FMS処理の流れ - スケジュール生成 -

Client



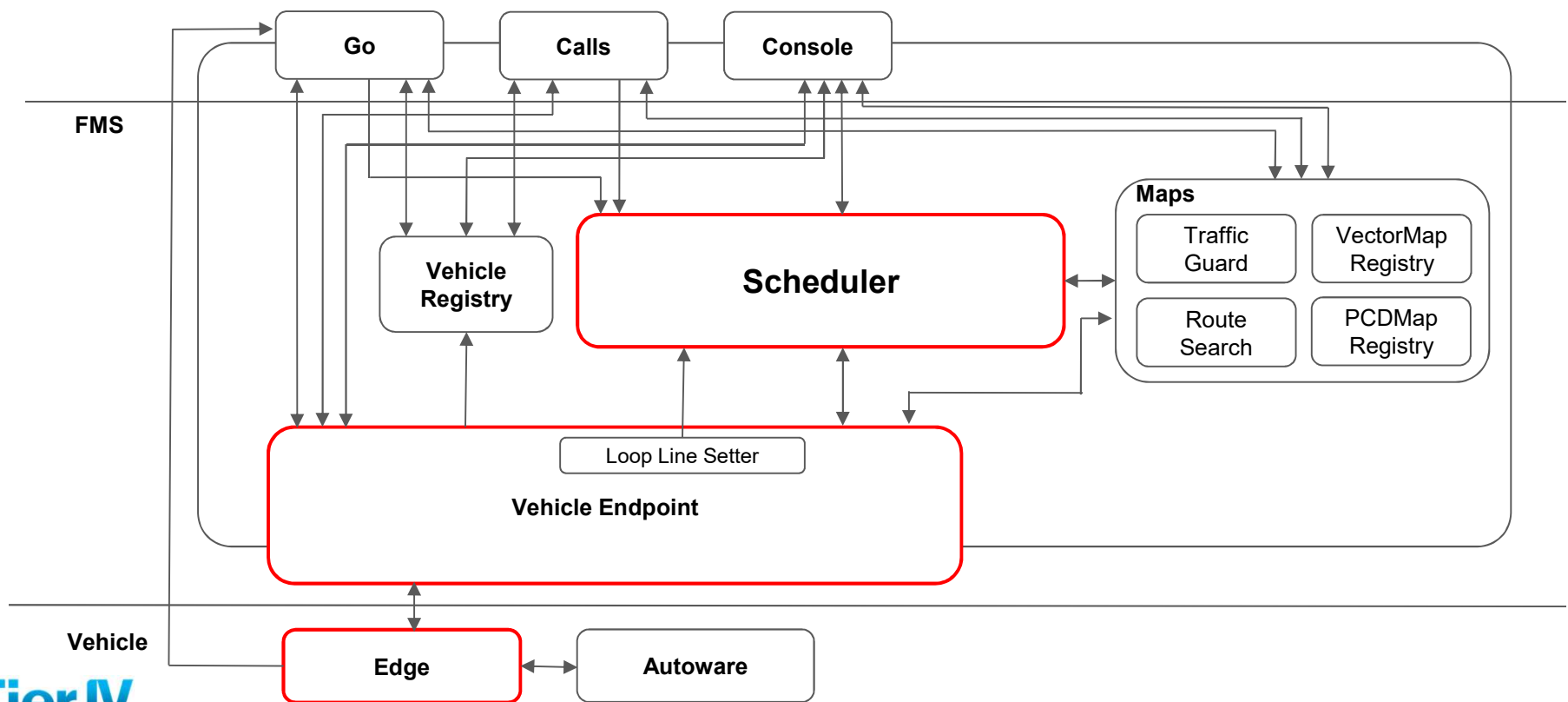
## FMS処理の流れ – スケジュール生成 –

1. Schedulerは、車両ごとに走行スケジュールを生成する
  - a. Mapsに対し経路探索を行い、所要予測時間と経路を取得しスケジュールにセットする



# FMS処理の流れ - スケジュール実行 -

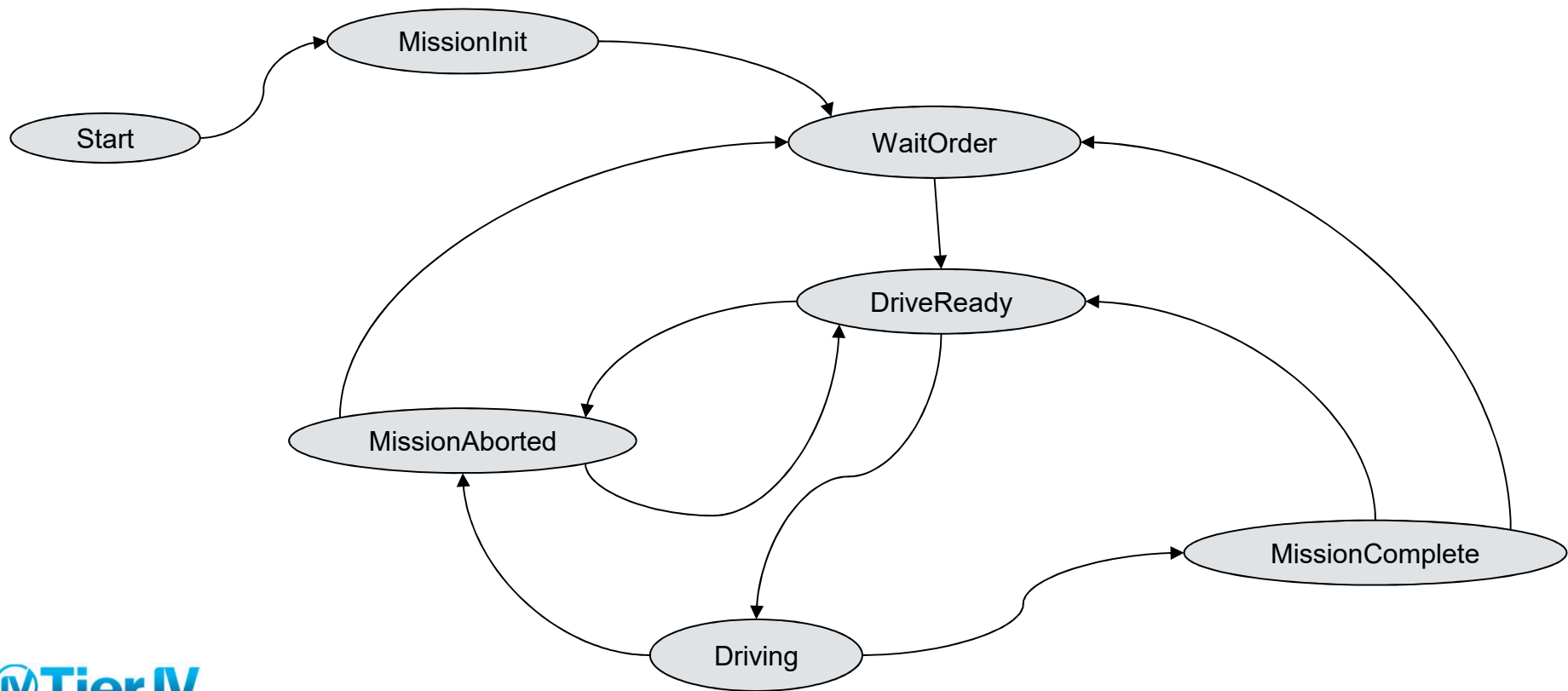
Client



## スケジュール実行時の処理の流れ

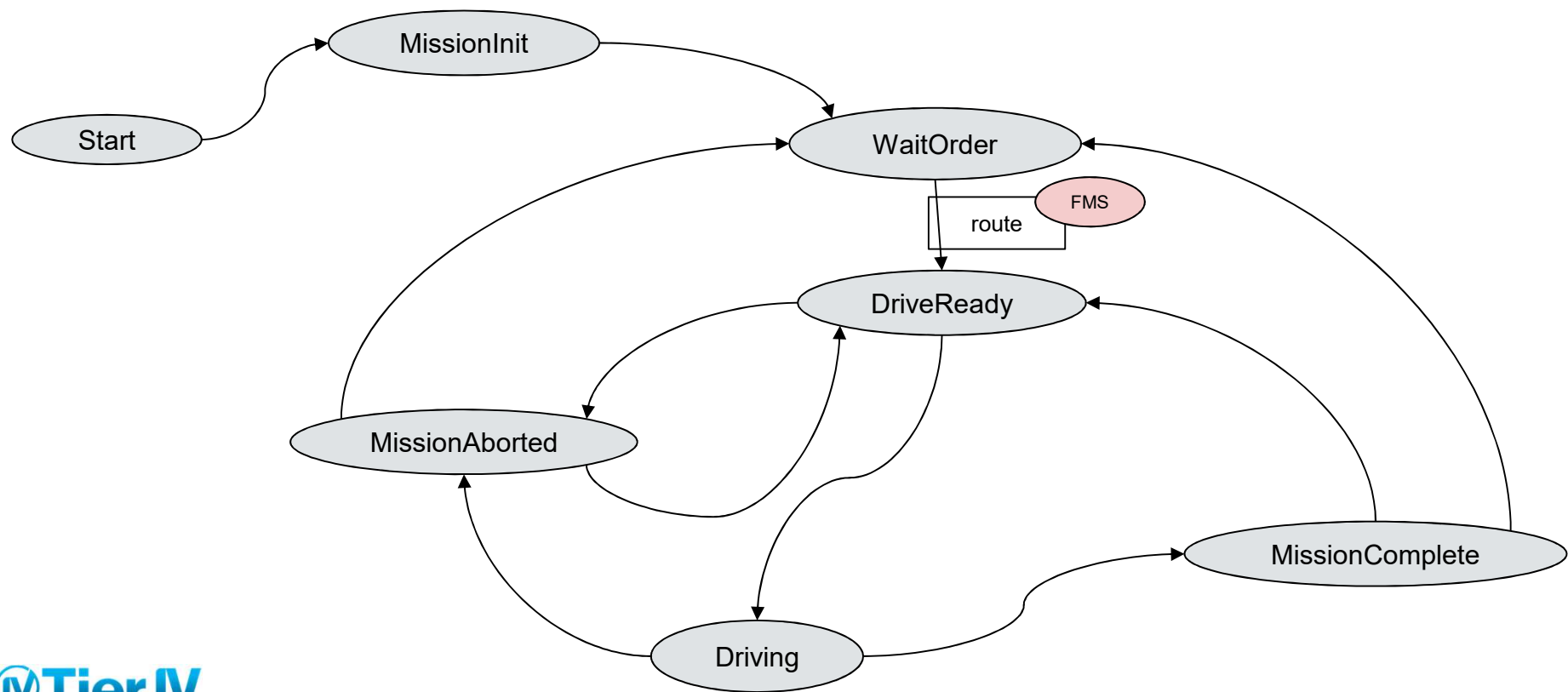
- Schedulerに入っている予定をマスターとし、Autowareのステートを変化させて行く
- 例
  - 出発準備できると発進可能状態 (DriveReady)へ遷移

## Autwareのステートマシン (一部)

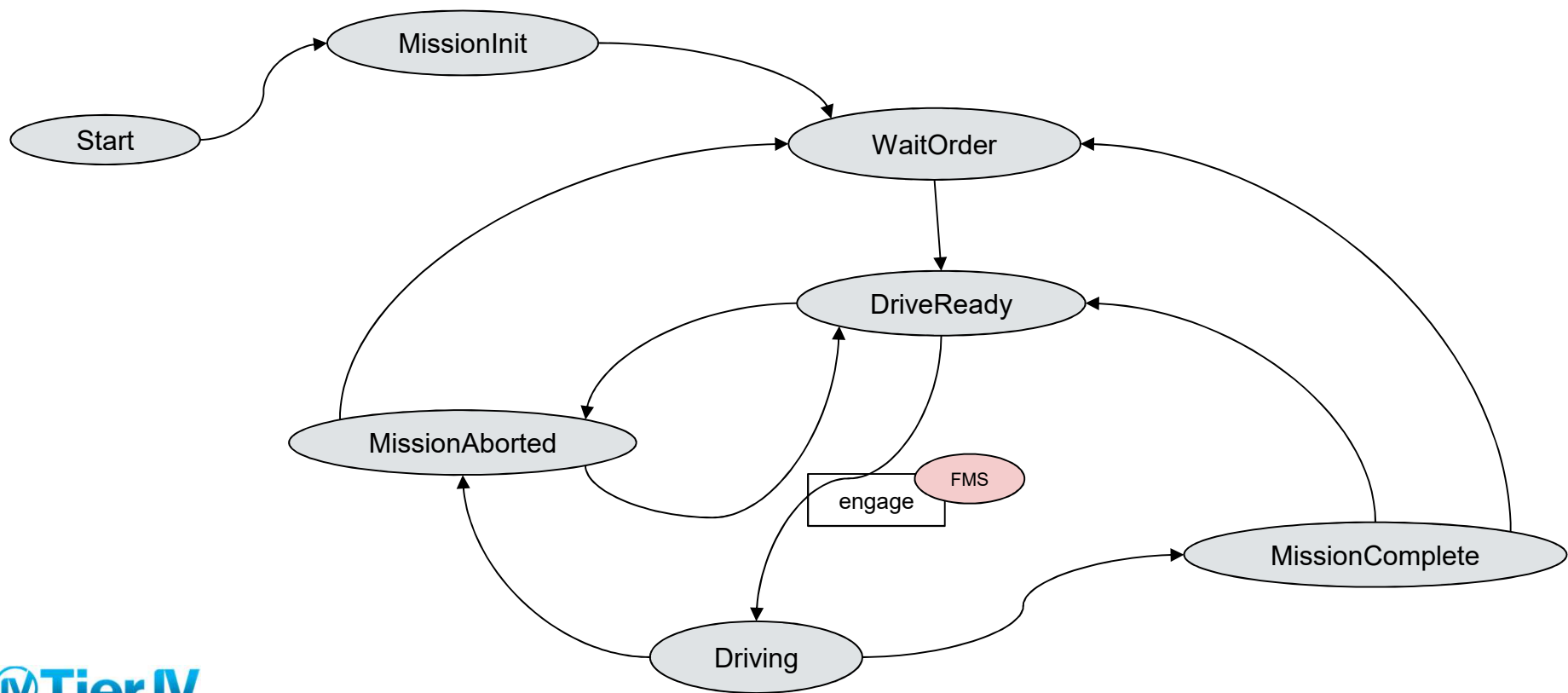




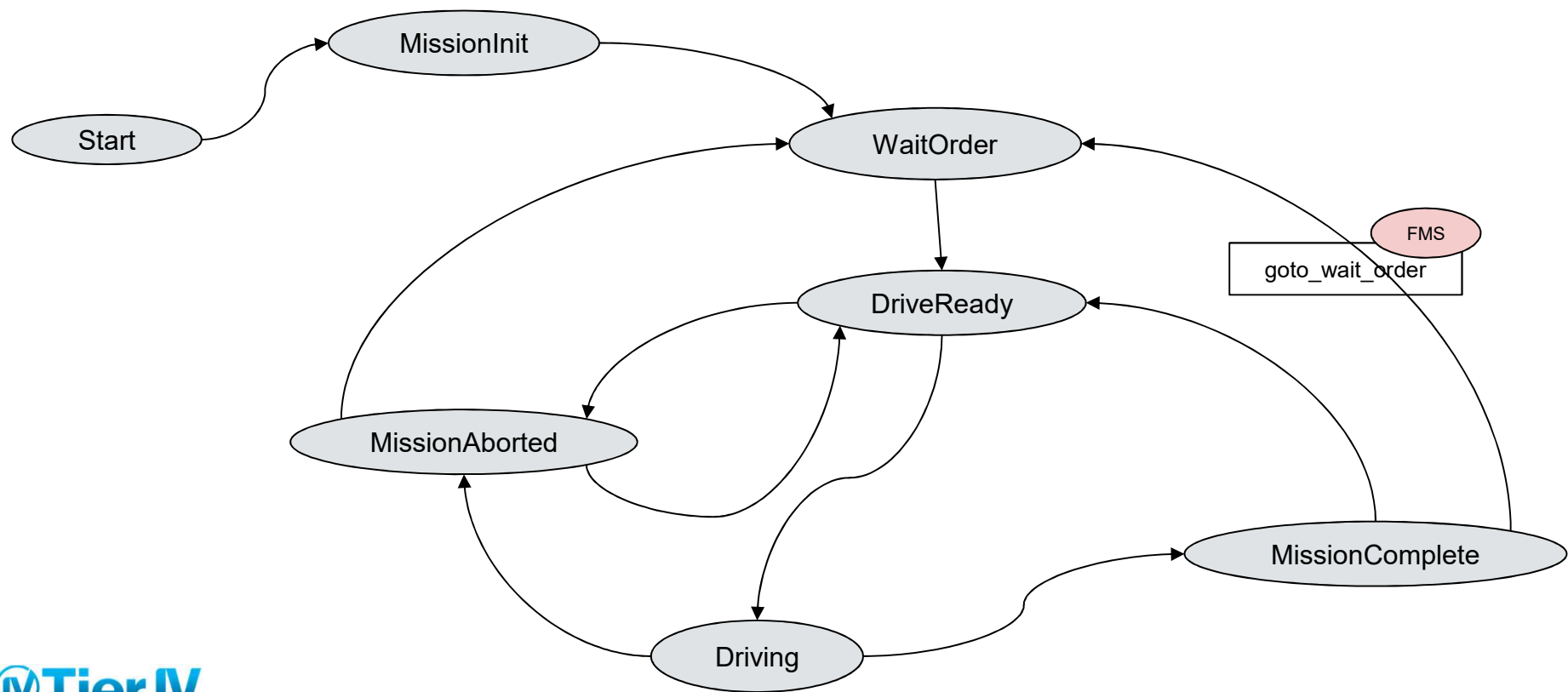
## Autwareのステートマシン (一部)



## Autowareのステートマシン (一部)



## Autwareのステートマシン (一部)



## スケジュール実行時の処理の流れ

- Schedulerに入っている予定をマスターとし、Autowareのステータスを変化させて行く
- 例
  - 目的地に着いたら次の予定待ち状態(WaitOrder)へ遷移
- IoT Events検討中



AWS IoT Events

## | IoT活用事例

## | IoT活用事例

- 配車サービス
- 設備連携 (V2I)
- フィールドテスト

## | 配車サービスにおけるIoT活用事例

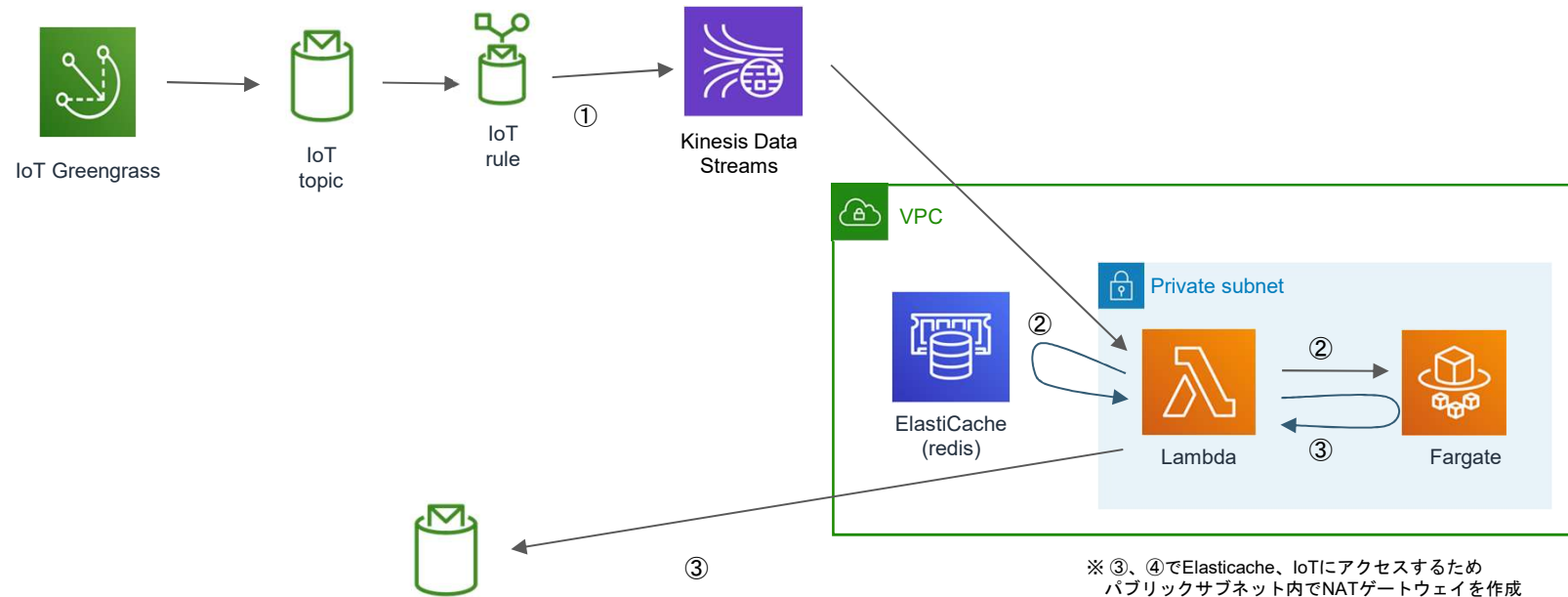


## 様々なデータの通信

- 車両 => FMS
  - 車両状態, 速度, バッテリー, 位置情報など
- 車両 <= FMS
  - ステートコマンド, 経路, 車両操作コマンド

## AWS IoTの利用

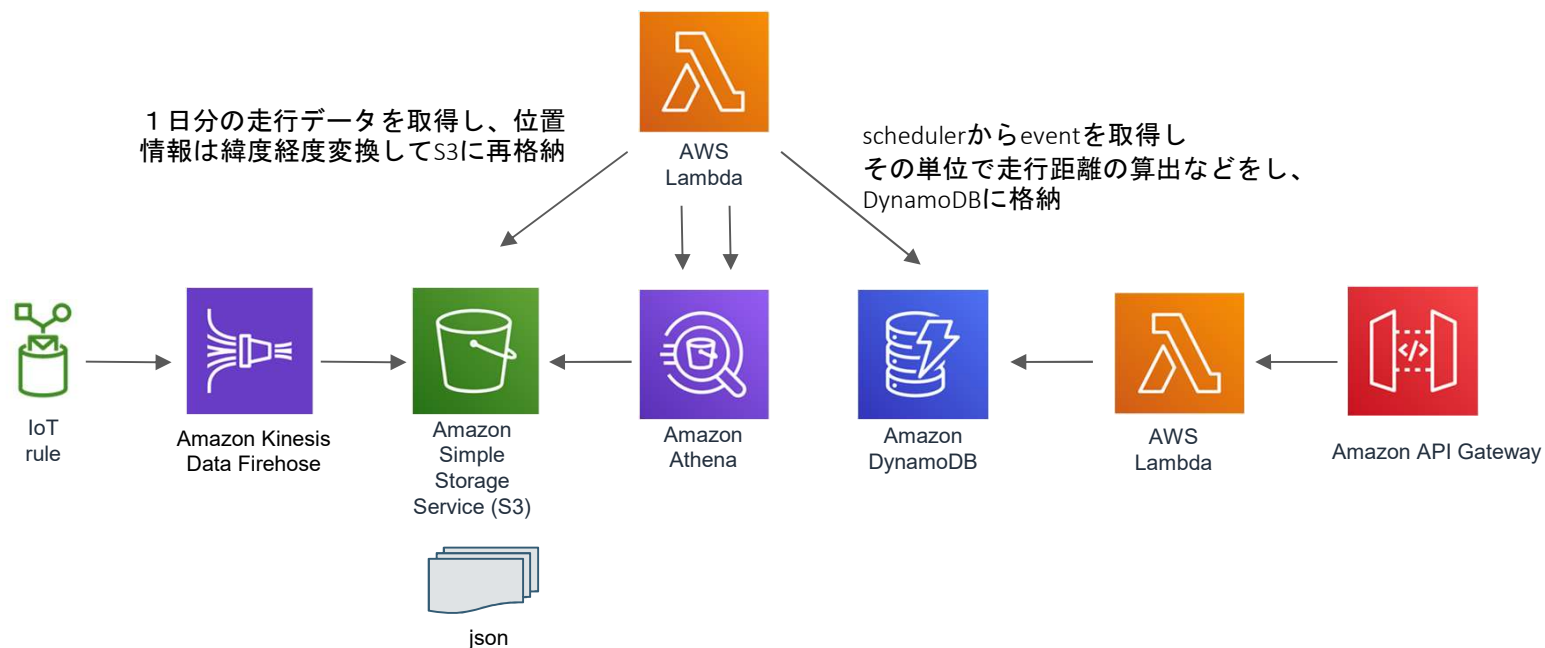
### ● Kinesisで処理をある程度まとめてから捌く



- ① IoT ruleでvehicle\_idをPartitionKeyにput (シャード分割して、起動するLambdaを車両毎に)
- ② 車両状態を取得  
→ 変更があった場合、Fargateへrequest
- ③ 車両のスケジュールを取得、スケジュールの状態をpublish

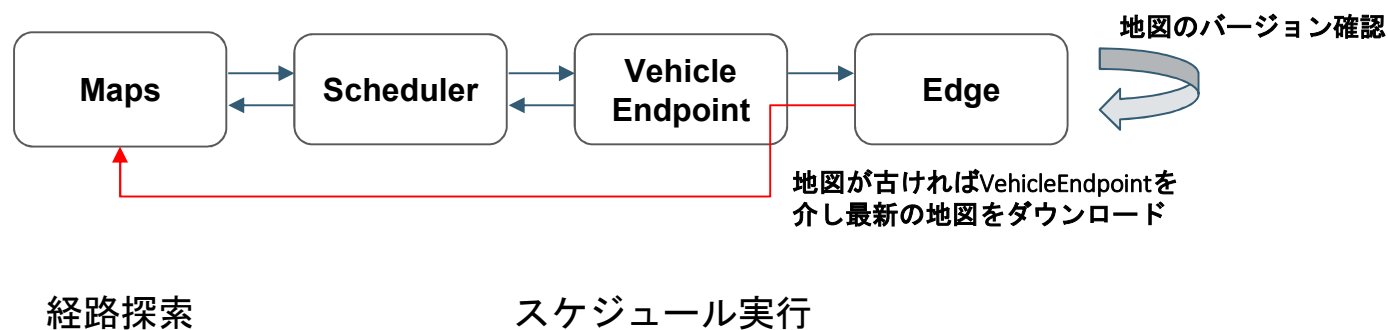
## データ保持とデータ加工

### ● 取得したデータを元に日報データを整備

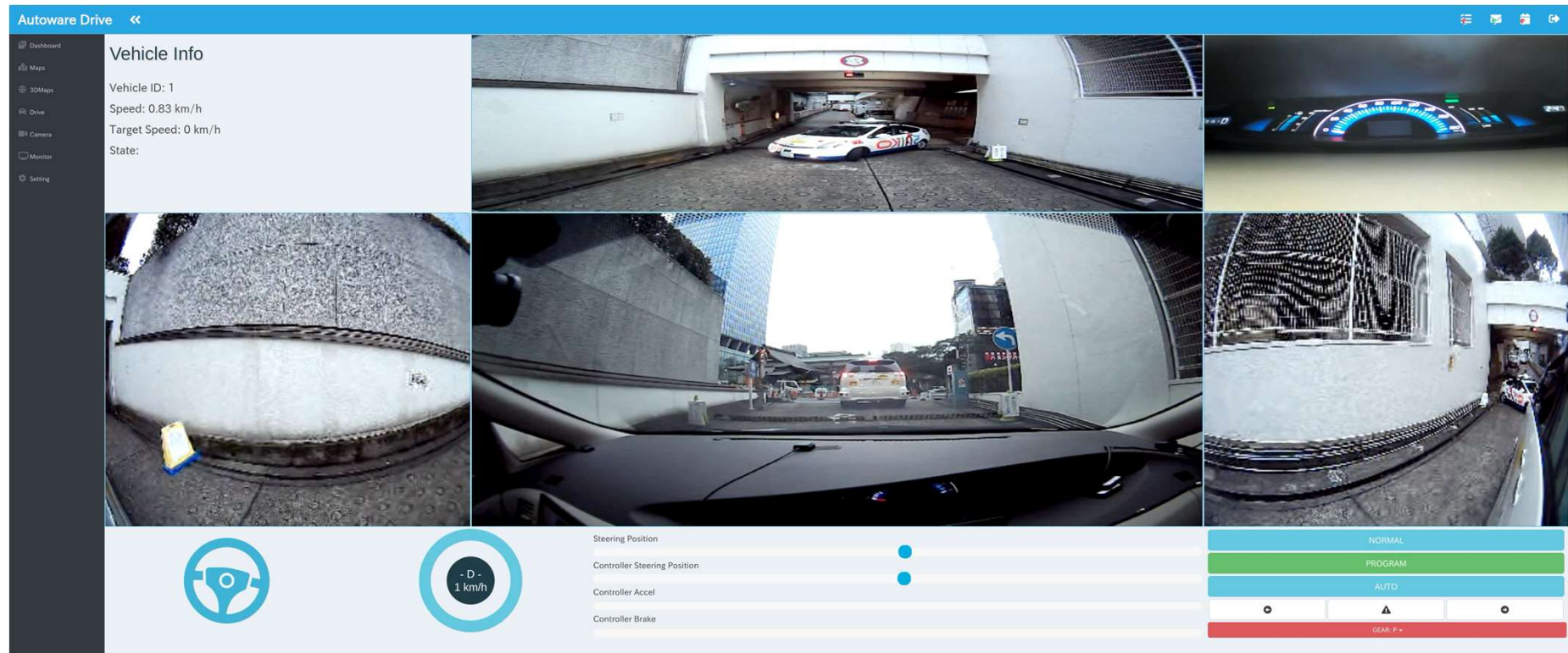


## 地図データ更新

- 地図バージョン管理
- 経路のバージョンがCloudと一致しなければダウンロード



# Autoware Drive (遠隔運転の取り組み)



## Autoware Drive (遠隔運転の取り組み)

- 安全・高速な通信が必要
- 様々な検討
  - AWS IoT
  - MQTT
  - QUIC

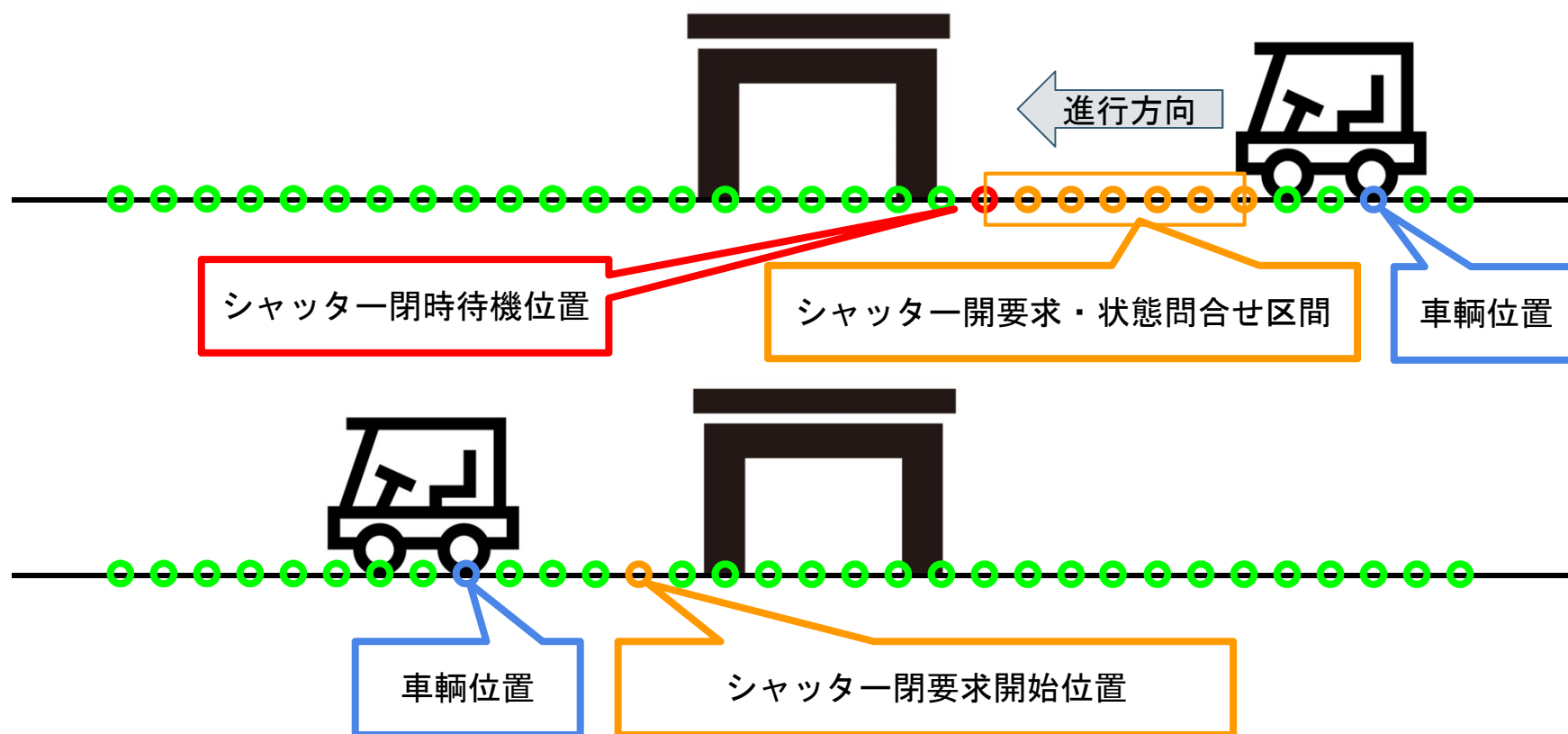
## | 設備連携におけるIoT活用事例



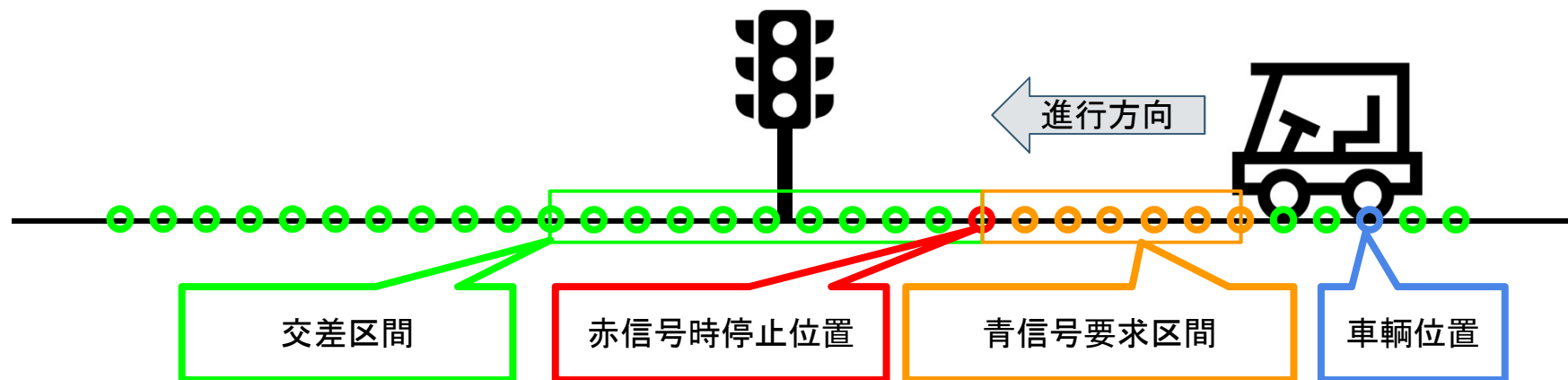
## 設備連携

- 完全自動運転になると人手を介入させない設計が必要
- 例
  - 交差点での複数車両調停
  - シャッター連携
  - エレベータ連携

## シャッター連携

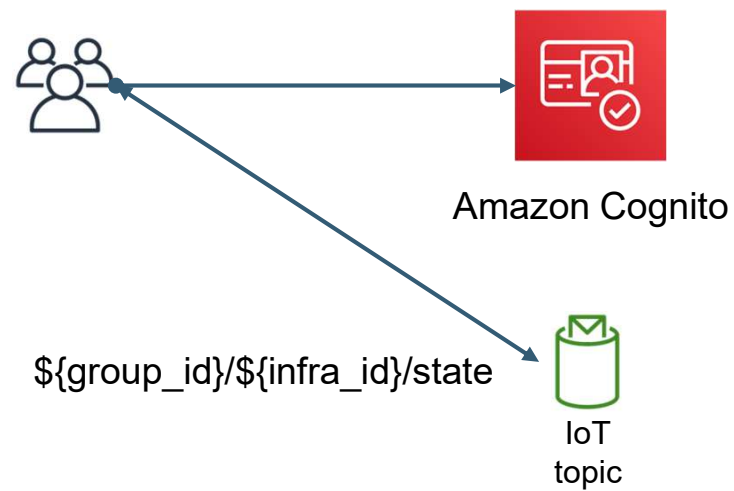
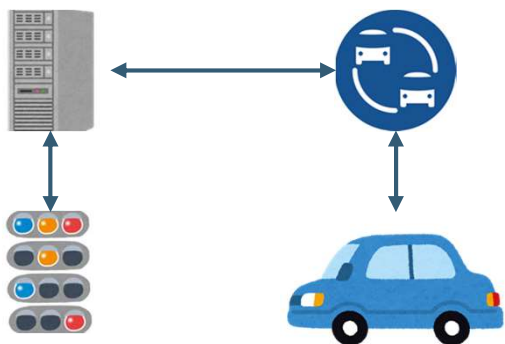


## 信号機連携



## 他システム連携

- 設備状態のステート遷移をIoTで



## 他システム挟まない

- ビーコン/BLEで
- 遠隔で異常監視する必要のないもの



## | フィールドテストでのIoT活用事例

## フィールドテスト準備

- 事前の品質向上
  - プログラムのテスト
  - シミュレータによるテスト

## フィールドテスト

- フィールドでしか試せないことがある
  - 実車両・走行環境によって様々な調整が必要
  - 制御動作の確認, 通信環境の確認
- 決められた手順で調整できることが重要



## Greengrassを用いたOTA

- プログラムの更新
  - ローカルLambdaのOTA
  - AWS IoT ジョブによりS3 Pre-Signed URLからバイナリを取得



Greengrass



Cloudformation

## Device Shadowを用いた設定変更

- ログレベルの変更
  - テスト時に遠隔から手厚いサポートをする場合に設定を変更
- 映像配信ビットレート

## ドラレコデータのリアルタイムアップロード

- Autowareが利用しているROSではログデータが大きくなりやすく重要な時間に絞って切り取ることが重要
  - Autowareの異常をトリガーに決められた時間のログを保持
  - 機械学習を用いた未知のデータの検出を行う研究開発

## 今後の展望

- フィールドテスト強化
  - 大容量ドラレコデータとFMS運行データの紐付け
  - セキュアな環境を素早く構築
  - ソフトウェア自体・設定情報を素早く更新
- 品質・安全への取り組み強化
  - リッチなテストの整備, 自動化整備